

コリント

第二

10

「誇る者は
主を誇れ」

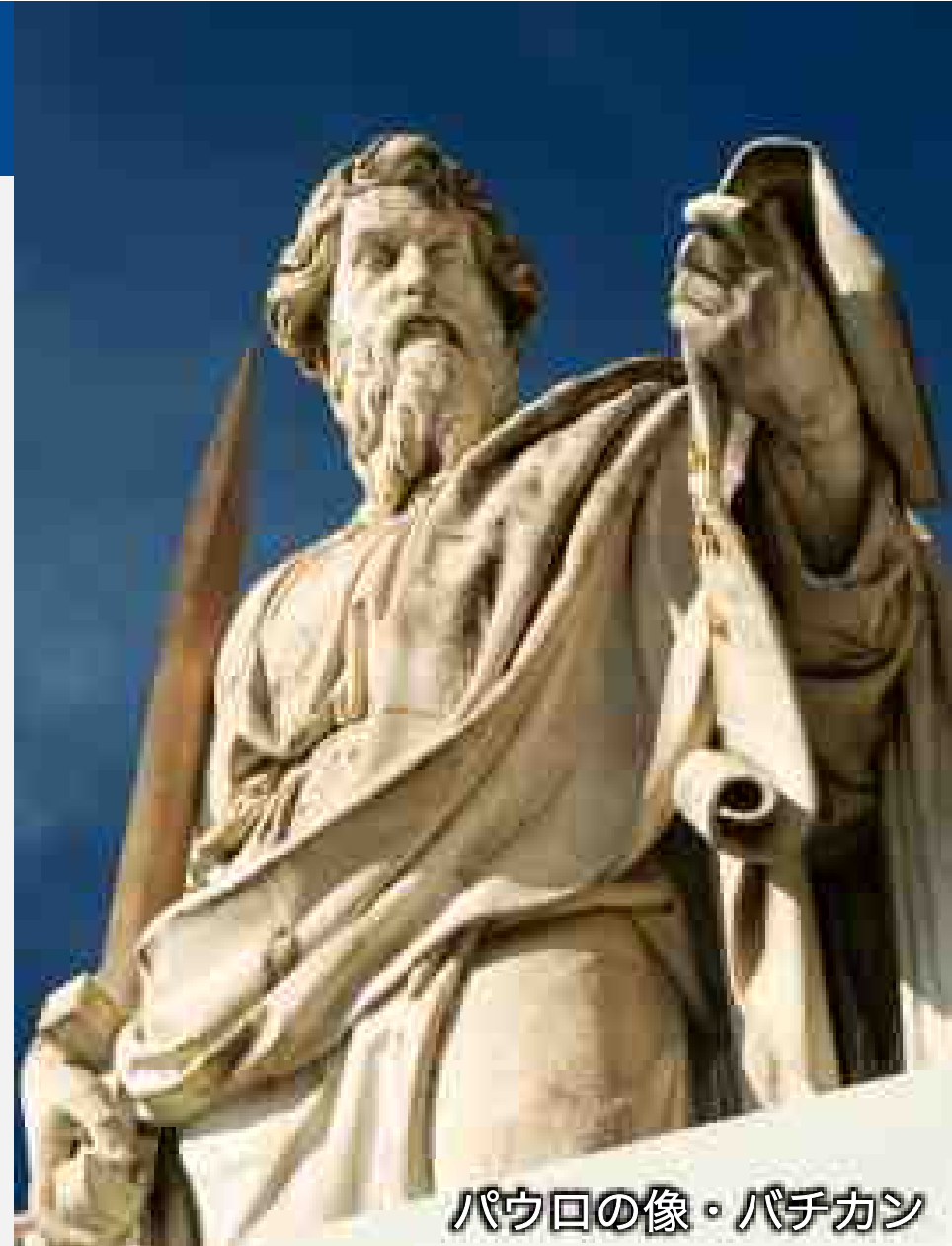
コリント人への手紙Ⅱ 10章 パウロの使徒性の宣言

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. パウロの使徒宣言 1~11節
- II. ただ主を誇れ 12~18節
- III. まとめと適用

誇りあるキリスト者として

歩もう



パウロの像・バチカン

コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。



パウロのコリント訪問

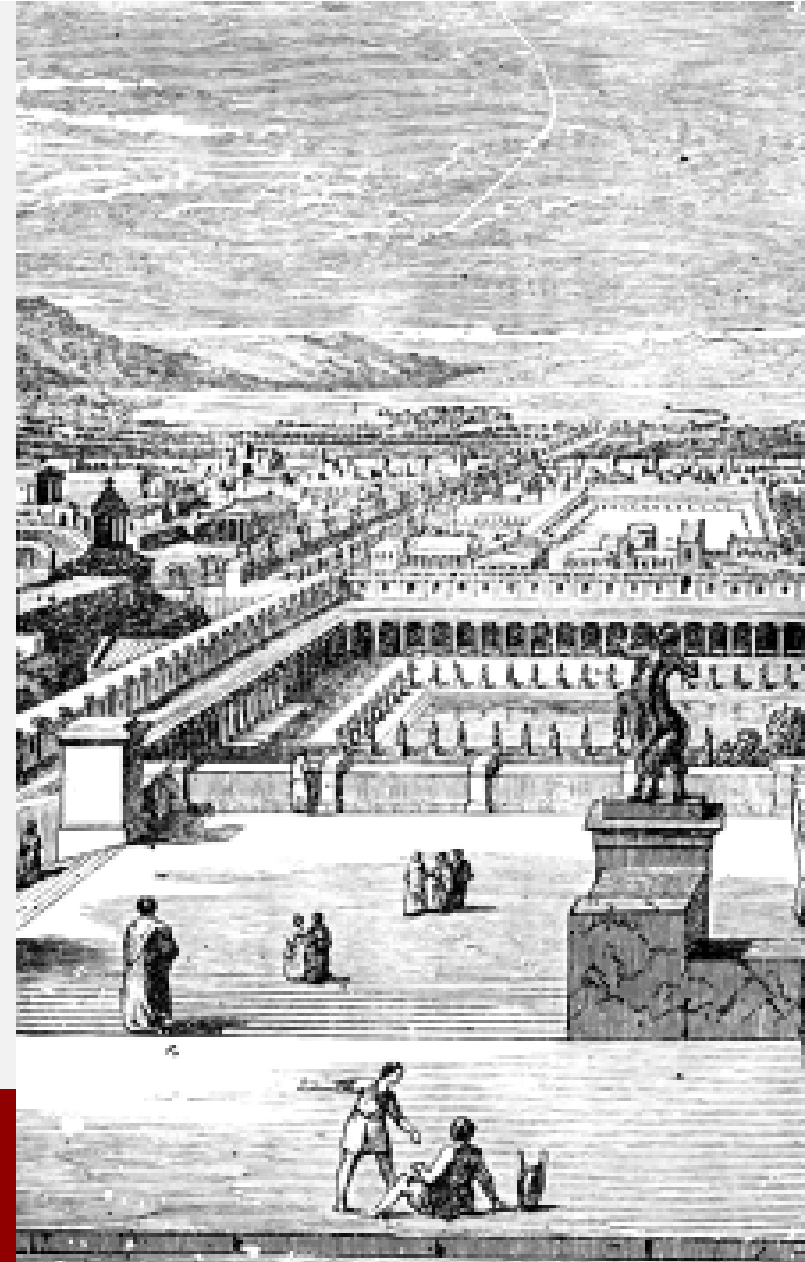
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)
テトスと合い、現状を聞く
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
 - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
 - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
 - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. パウロの使徒宣言 IIコリント10章1～11節

パウロの像・バチカン

【パウロの願い】 II コリ10:1

さて、あなたがたの間において顔を合わせているときはおとなしいのに、離れているとあなたがたに対して強気になる*私パウロ自身が、キリストの柔和さと優しさをもってあなたがたにお願いします。

* 敵対者たちのパウロへの誹謗中傷

- ➔ 論点をずらす“個人攻撃”は、常套手段。
- 本質は彼らの逸脱した教理。偽りの信仰。
- ➔ パウロへの人格攻撃は問題のすり替え。



パウロは、
敵対者の本質を
見抜いている

【敵対者への態度】 II コリ10:2~3

私たちが**肉***に従って歩んでいると見なす人たち*
に対しては、大胆にふるまうべきだと私は考えて
いますが、そちらに行ったときに、その確信から
強気にふるまわないですむように願います。

私たちは**肉**にあって歩んではいても、**肉**に従って
戦ってはいません*。

*死ぬべき罪人の性質。…欲望や神への敵対心。

*信仰でも聖霊の導きによるのでもない敵対者。

*罪の性質はあっても、従わないのが、信仰者。



【聖霊の力によって】 II コリ10:4~5

私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。

私たちは様々な議論*と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶり*を打ち倒し、また、すべてのはかりごと**を取り押さえて、キリストに服従させます。

*パウロが戦っていたこと。

*使徒の権威を貶めようとする策謀。

**キリスト者には、
避けられない戦い・論争がある!!**



教理の擁護者・パウロ

【キリストに属する者として】 II コリ10:6~7

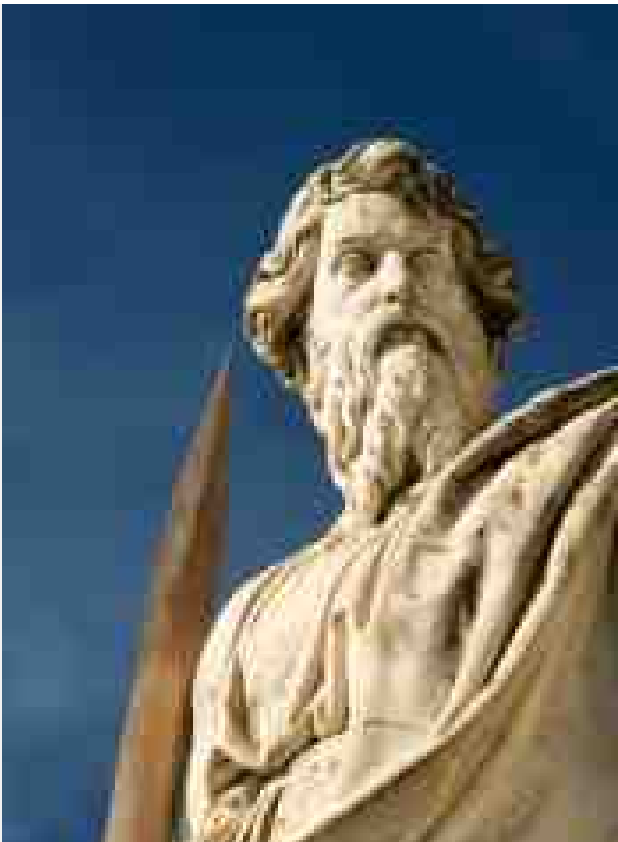
また、あなたがたの従順が完全になったとき、あらゆる不従順*を罰する用意ができています。

あなたがたは、**うわべのこと***だけを見えています。もし自分はキリストに属する者だと確信している人がいるなら、その人は、自分がキリストに属しているように、私たちもキリストに属しているということを、もう一度よく考えなさい。

*コリントの問題の中心的人々、敵対者

*敵対者たちの性質 …躊躇のない嘘で塗り

固めた巧みな弁術。表面を取り繕う信仰表現。



キリスト者には
正確な神の
懲らしめがある
覚悟はあるか？

【教会を建てるための権威】 Ⅱコリ10:8

あなたがたを倒すためにではなく、建てるために主が私たちに与えてくださった権威*について、私が多少誇り過ぎることがあっても、恥とはならないでしょう。

* 普遍的教会の土台を築いたのが使徒たち。

➔パウロはまた、福音を最初に伝え、コリント教会をも建て上げた。



福音を告げるパウロ

【対決すべき相手】 II コリ10:9~10

私は、手紙であなたがたを脅している*かのように思われたくありません。

「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会ってみると弱々しく、話は大したことはない」と言う人たちがいるからです。

*敵対者たちが告げていたことの一つだろう。

■使徒性を否定する敵対者は、神への反逆者。

主の権威をもって正面から対峙すべき相手。

悪を見逃さず、対決する覚悟が時に求められる



【パウロの覚悟】 II コリ10:11

そのような人*は承知していなさい。私たちは、
離れて書く手紙のことばどおりの者として*、
そちらに行ってもふるまいます。

- *パウロの使徒性を疑い、貶める敵対者たちは、
パウロを使徒とした、主イエスを貶めている。
- *パウロの断固とした態度は、主イエスの使徒
としての権威に基づくもの。

恐れるべきは、権威ある主



ΤΡΑΠΕΖΑ ΤΗΣ ΕΛΛΑΔΟΣ



II. ただ主を誇れ IIコリント10章12~18節

ΔΡΑΧΜΑΙ ΠΕΝΤΑΚΟΣΙΑΙ

【敵対者たちの愚かさ】 II コリ10:12

私たちは、自分自身を推薦している人たち*の中のだれかと、自分を同列に置いたり比較したりしようとは思いません*。彼らは自分たちの間で自分自身を量ったり、互いを比較し合ったりしています*が、愚かなことです。

*敵対者たちの態度。自己顕示欲の強さの表れ。

*敵対者たちと明確に一線を引くパウロ。

*多くの偽教師たちが、自己主張でしのぎを削り、コリント教会に混乱をもたらしていた。



左ペテロ像 右パウロ像

【限度の内での奉仕】 Ⅱ コリ10:13

私たちは**限度**を超えて誇りません*。神が私たちに割り当ててくださった**限度**の内*、あなたがたのところにまで行ったことについて、私たちは誇るのです。

- *使徒の権威は、完全に神の御手の内にある
 - ➔主がゆるされた範囲のことしかできない。
- 神の領域を侵しているのが、偽教師たち。



【主が遣わされた】 II コリ10:14

私たちは、あなたがたのところに行かなかったかのようにして、無理に手を伸ばしている*のではありません。事実、私たちは他の人たちに先んじて、あなたがたのところにキリストの福音を携えて行ったのです。

*自分の行っていないことにまで手を伸ばし、自分の功績だと主張するのが、偽教師。

■パウロの主張には、裏付けされた事実がある。



【労苦の目的】 II コリ10:15

私たちは、自分の限度を超えてほかの人の労苦を誇る*ことはしません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間で私たちの働きが、定められた範囲の内で拡大し、あふれるほどになること*を望んでいます。

*自分の労苦を誇りすぎるのも敵対者たち。

*伝道者に与えられる労苦の、真実の目的。

→ 労苦もまた、主から与えられること。
主の使命に沿わない労苦に意味はない。

労苦に耐え得るのは
主の使命に
従っているから

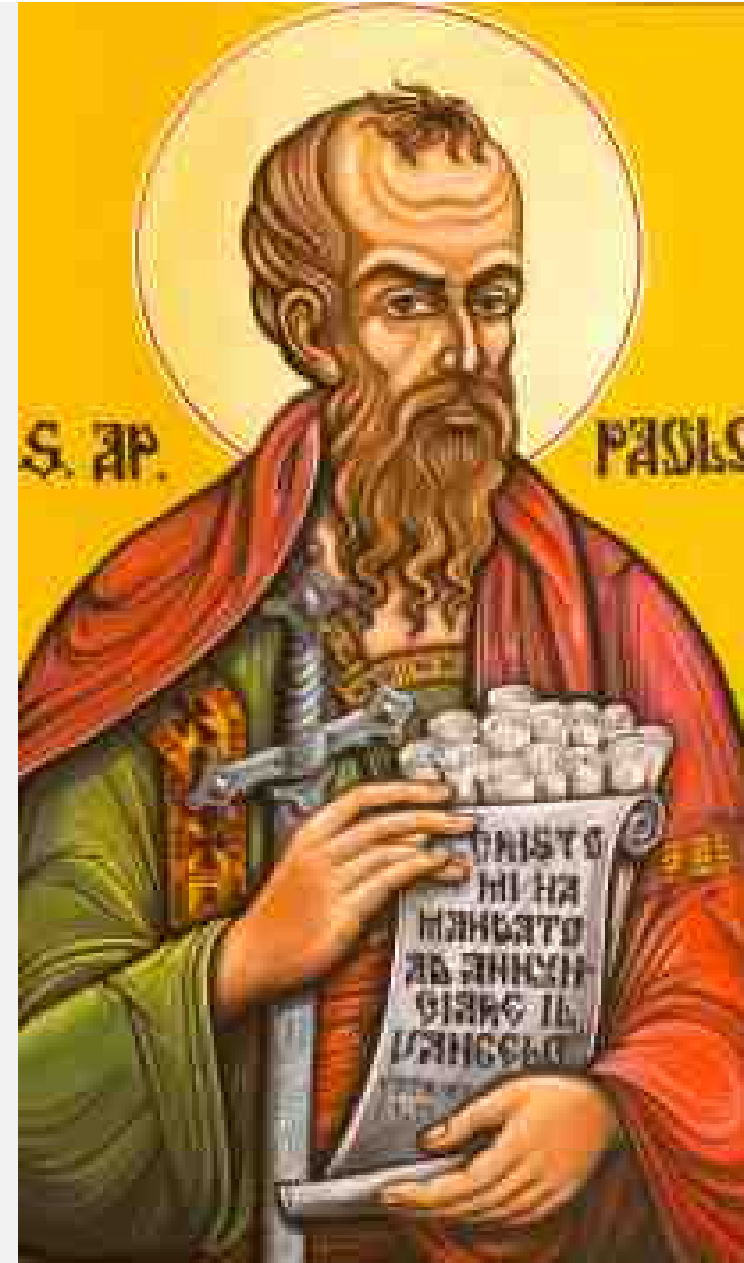
囚人パウロの総督への宣言



【パウロの決意】 II コリ10:16~18

それは、あなたがたより向こうの地域にまで福音を宣べ伝えるため*であって、決して、ほかの人の領域ですでになされた働きを誇るためではありません。

*建て上げられた地域教会内への影響力や、縄張り争いには無関心。パウロの関心は、さらに伝道を拡大していくこと、それだけ。
→縄張り争いで騒ぎ立てる暇があったら、新しい領域への福音宣教力を注ぐべき。



【ただ一つの誇り】 Ⅱコリ10:17~18

「誇る者は主を**誇れ***。」

自分自身を推薦する人ではなく、主に推薦される人こそ本物です。

*エレミヤ9:24 「悟りを得て、わたしを知っていること」を「誇れ」

■パウロほど聖書知識を持っていた者はない。
主イエスに討たれ、真実に主を知らされた。

■主を**誇る**とは、**主イエスの福音を告げること**。
用いられ遣わされる者こそ、主が推薦する者。



エレミヤ書9章23～24節

——【主】はこう言われる——

知恵ある者は自分の知恵を誇るな。力ある者は自分の力を誇るな。富ある者は自分の富を誇るな。

誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。

わたしは【主】であり、地に恵みと公正と正義を行う者であるからだ。まことに、わたしはこれらのことを喜ぶ。

——【主】のことば。』』



Ⅲ. まとめと適用

誇りあるキリスト者として歩もう

マケドニアの山々

使徒パウロに敵対する偽教師たちの姿

- 論点をずらした、パウロへの個人攻撃。
- 肉の罪の性質に従って歩む。
- 様々な議論。神の知識に逆らう高慢。はかりごとを企てる。
- 神への不従順。うわべだけの信仰。
- 自分で自分を推薦。常に他者とポジション争い。
- 神の領域にまで踏み込み、限度を超えて自分を誇る。
- 他者の功績まで自分の手に奪い取ろうとする。自分の労苦を誇る。
- 他者の功績の上に、自分の縄張りを広げようとする。

今の地域教会の中にも、あるある？

クリスチャンが誇るべき、唯一のこと

- 聖書フォーラムを離れた人々の、とある二つの例に共通すること。
→ 自己推薦。自分を誇る。他者と比較。手柄は自分。縄張り意識。
偽教師には、誇らなければならないものが、山ほどある!!
- 使徒パウロが唯一誇ったこと → 「誇る者は主を誇れ」
「福音を恥とはしない(ロマ1:16)」→ パウロが誇ったのは**福音のみ**
- 私たちクリスチャンが誇りとし、宣言すべきは**福音のみ**!!
福音のみを誇りとし、掲げ、宣言して歩むのが、クリスチャン。

コリント人への手紙第一 15章1～2節

兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた**福音**を、改めて知らせます。あなたがたはその**福音**を受け入れ、その**福音**によって立っているのです。

私がどのようなことばで**福音**を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この**福音**によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。

コリント人への手紙第一 15章3～5節

私があなたがたに**最も大切なこと**として伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。

キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

コリント人への手紙第一 15章6～8節

その後、**キリスト**は五百人以上の兄弟たちに同時に**現**れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。

その後、**キリスト**はヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに**現**れました。

そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも**現**れてくださいました。

コリント人への手紙第一 15章9～11節

私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。

ところが、**神の恵み**によって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの**神の恵み**は無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった**神の恵み**なのですが。

とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちは**このように**宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

私たちクリスチャンが誇るべきは、主の**福音**。

“主イエス・キリストは、私の罪のため、十字架にかけられ、
死んで葬られ、死を打ち破って復活された。”

一方的に与えられた、この恵みの**福音**を信じて救われ、
福音の恵みに堅く立ち続けるのが、クリスチャンだ。

私たちの誇りである**福音**を高く掲げ、
高らかに**福音**を宣言していこう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を贖うために^{じゅうじか し}十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に^{しん}復活した^{しん}こと、を信じます。

パウロは、福音を恥とはしない、と宣言しました。

私たちが^{ほこ}誇りとし、^{せんげん}宣言すべきは、^{ふくいん}福音だけです。

自分自身を^{ほこ}誇るなら、たやすく私たちは、^{みち はず}道を外れてしまいます。

堅く、ただ福音に立つ者としてください。

^{よろこ み}喜び満たされて主を^{しゅ ほこ}誇り、福音を^{ふくいん せんげん}宣言する者として^{もの}遣わして^{つか}ください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」